

完成見学会のご案内

環境の世紀21世紀にふさわしい木組みの住まいづくりを進めてまいりました「浅浦の家」が完成しました。お施主様のご厚意により、完成見学会を開催させていただきます。

2月27日・28日 午前10時～午後5時

お問合せ <http://yumekikou-happy.com/>

子どもたちが喜ぶ家 検索 又は 土壁佐賀 検索

※この旗が会場までご案内します



自然素材でつくった家で暮らす

「古民家再生 浅浦の家 完成見学会」

映画『佐賀のがばいばあちゃん』ロケ地



おかげさまで

「サガ電子工業(株) 新工場」

- ☆第17回 佐賀市景観賞
- ☆第10回 木の建築賞
- ☆2013年 佐賀の家賞
- ☆2015年 第10回民家再生奨励賞 大賞

をいただくことができました。 [詳細は裏面に](#)

木組みをあらわした数少ない古民家再生の見学会です。

- 子どもたちが喜ぶ住まいづくりを実感されたい方。
- 住宅メーカーの契約はまだけど、もう契約寸前の方
- たくさん住宅展示場を見学したが、いまいぢ納得できない方。
- 家づくりなんて、まだまだ先のことだけれども、いつか家を造るときのために、見ておきたい方。
- 既に仮契約済だけど、「これでいいのかな」なんだか不安を感じている方。
- 木組みの家、自然素材の住まいをお望みの方。
- 既製品でない、手造りの「ここちよい家」で暮らしたいと思っている方。

あの時、あのチラシの見学会を見ておけば良かったと、後悔する前に(実際、そのような方がいらっしやって、残念がっていましたから…)

この機会を是非お見逃しなく!!!

小さなリフォーム工事もお気軽にご相談下さい!

私たち夢木香は、主に古民家の再生を手掛けて来ていますが、最近、部分的なリフォームのご依頼やお問い合わせがあります。私たち夢木香は築100年を超える民家のリフォームを数多く手がけて培った経験と実績を活かし、これらのご要望に真摯にお答えしたいと思っております。「小さな工事だけれども、どこに相談したら良いのかな?」とお悩みの方も私たち夢木香にご相談していただければ幸いです。

古民家に学ぶこと

夢木香の住まいづくり

夢木香は自然素材にこだわり施工します。素材は身近にあります。施工するためには職人の技術が必要です。木や竹や土や紙や藁を、大工、左官、瓦、建具、畳職人たちが力を合わせ仕上げてゆきます。古民家の再生を手がけることにより、昔の職人たちと会話ができます。力強さと優美さを兼ねそなえた丸太の木組み、落ちついた風合いのいぶし瓦、漆喰の美しさなど、いたるところに昔の職人の心意気が感じられます。その技術を伝承し、次世代に伝えてゆくことが大切だと感じます。古民家の再生に学び、その技術と思想を、新築やリフォームにいかしてゆくことが、私たちのつとめだと考えます。

本当のエコ住宅とは

近年、エコ住宅をうたいもんに、高気密高断熱が盛んになられていきます。通気を遮断し、吸湿性のないビニールクロスの家が多く見受けられます。結露が発生しやすく、カビの原因をつくり、カビがダニを呼び、ダニの死骸がアレルギーを誘発します。それを避けるためには、エアコンや換気扇あるいは除湿機や加湿器や空気清浄機が必要です。つまり、設備機器を効率よく使うための工法です。設備機器がなかった時代につくられた古民家には、機械を使わない工夫があります。呼吸する自然素材がふんだんにつかわれ、梅雨や夏の暑さをしのぐ知恵があります。寒さに対して、適度な気密と断熱をとれば、暮らしやすい住まいになります。本当のエコとは設備機器をできるだけ使わない住まいだと考えます。

人が住まいをつくり 住まいが人の心をつくる (沖縄の古民家 中村家住宅)

人間が家をつくるが 住まいは人間をつくる (イギリス元首相 チャーチル)



心と体の健康を育む住まいづくり

<http://yumekikou-happy.com> E-mail: yumekikou@globe.ocn.ne.jp

〒849-1315 佐賀県鹿島市大字三河内甲2847 ☎0120-835-832 TEL:0954-69-8333 FAX:0954-69-8334

酒蔵など4棟を 環境に配慮した社屋、工場として再生



人間が家をつくるが 住まいは人間をつくる (イギリス元首相 チャーチル)

強度が出ます。使わなかったのは木材の悪くなったものくらい。それも冬場に暖をとるための燃料として使いました。

にはぐつと冷え込むように大幅な室温の変化がありました。それに比べて土蔵は朝20℃だった夕方までずっと20℃です。小柳社長は土蔵の調湿効果も実感している。パートの方にも話を聞いた。「前の工場は部屋を密封していたので、空気は淀んでいたように思います。ここは天井が高く広くて広いのでとても楽になりました。夏のはじめも割と涼しく、冬は薪ストーブと水クーラーの風だけですが過ごしやすいですよ。」とおっしゃっていただきました。

言って、車で1時間かけて通勤しているひともいるそうです。テレビや新聞でも循環型社会に取り組む会社として取り上げられるなど、知名度も上がりました。

自然な環境の中で 仕事がしたい

サガ電子工業は今年で設立41年目を迎えた。1996年に会社を受け継いだ小柳社長は、当時の工場が住宅地にあつたこと、建物や設備が古くなつていたので、何度か建て替えや移転を考えたが、決断までにはいたらなかった。

小柳社長は42歳のときに(2008年)がながみつき、残りの人生はちょっとテンポをゆるめた生き方をしたいという考えが強くなったそうです。「今はストレス社会なので、ほっとする場所が必要。1日の3分の1は仕事です。から、エアコンでキンキンに冷えて寒い思いをしたり、カラカラに乾いた熱風のなかで仕事をするのではなく、なるべく自然な環境の仕事場ができないかと考えるようになりまして。さらに、「酒蔵に入れてもらったことがあります。ひんやりとしてすぐ快適で、古い床板もすてきで、ここでアンテナの組み立てができたら幸せだろうなと思つたことがあります。」と話してくださつた。

そして2011年3月の東日本大震災と原発事故によって始まつた「節電」に直面し、あらためてエネルギーの使い方を考えるようになったとのこと。2ヶ月後、たまたま知人に紹介されて民家を移築再生した店舗に入り「これだ!」と直感され、さっそくホームページで検索し、夢木香が目にとまる。一目散で事務所を訪ね、こういうことがしたいんだと話されると、ちょうど再利用を望んでいる蔵があつて、すぐに見に行くことに。武雄市の築100年を超える2棟の酒蔵と、西有田町の築80年の米蔵と納屋を見て決意されました。「古さについては、どこも古かつたので心配を通り越してました。できるできないの感覚はなかつたですね」。その年の11月には契約、12月には蔵の解体工事が始まつた。

再利用と地産地消で 蔵を再生

●再利用可能なものはできる限り使う 移築再生にあたり、小柳社長は使える材料はできる限り再利用するという方針を決め、松尾(夢木香 代表)もそれに応じた。「捨てるものはほとんどありませんでした。壁の土もほとんど使いました。新しい土に古い土を混ぜたほうが

●新しい材料と職人も地産地消す 酒蔵、米蔵、納屋を丁寧に解体して柱・梁をできる限り生かし、竹小舞に土壁、そして漆喰で仕上げ、瓦を真いでいる。「時間がかりましたが、これをしない」と意味がないですから」と小柳社長。「この蔵で新たに使つた木材はほとんど佐賀県産材の杉、製材もうちの工場でおこないました。地元佐賀の大工、左官、瓦職人や電気屋さんを含め延べ5000人が蔵の再生に携わつています。そういう意味でも地産地消なんです。エネルギーの計算はできませんが、環境にいい建物が増えていいと思います。」と松尾。地域の小学生を招いて土壁ワークショップも開催した。パートの人たちは竹小舞の作業や土壁づくりに参加した。

●省エネ・省資源を実践し 蔵造りの景観を実現 工業団地にランドマークが誕生 社屋と工場は2013年春に完成し、工業団地に新しい景観を創りだした。建物のまわりには薪ストーブ用の薪を積んでいるため、材木屋だと思つたり、ここで喫茶店をしたらいいなと夢を見る人もいるそうだ。さらに「蔵のもつ調湿・調温機能を最大限に生かして省エネ、省資源といった先駆的なエコ活動を実践しながら、時代を経た蔵を再利用した美しい景観を創造した」として第17回佐賀市景観賞を受賞しました。

●電気エネルギーの使用を減らす 前の工場のように大容量のエアコンを使つていたが今は使っていない。20cm厚もある土壁の調湿効果により、夏場の蒸し暑さを快適に抑え、水クーラーと天井扇でも涼しく過ごせる。事務所の窓に取り付けたエアコンは、猛暑の日中に数時間使うくらいで済んでいる。冬も「前の鉄骨の工場は、朝会社を開けたら10℃くらいで、昼には24℃、また夕方

